

2 振り返りシート集計結果

奈良市子ども会議の各回で子どもたちにその日を振り返るアンケート(振り返りシート)を記入してもらい、子ども会議についての意見を聞きました。その集計結果は次のとおりです。

回答者数	第1回	22名
	第2回	22名
	第3回	18名
	第4回	19名
	第5回	20名

(問1) 楽しかったですか？

選択肢	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とてもそう思う	12	55%	20	91%	14	78%	15	79%	17	85%
そう思う	10	45%	2	9%	4	22%	4	21%	3	15%
そうでもない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
そう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	22	100%	22	100%	18	100%	19	100%	20	100%

(問2) わかりやすかったですか？

選択肢	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とてもそう思う	16	73%	15	68%	11	61%	15	79%	13	65%
そう思う	6	27%	6	27%	7	39%	4	21%	7	35%
そうでもない	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%
そう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	22	100%	22	100%	18	100%	19	100%	20	100%

(問3) 話しやすかったですか？

選択肢	第1回		第2回		第3回		第4回		第5回	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
とてもそう思う	6	27%	16	73%	12	67%	15	79%	17	85%
そう思う	16	73%	6	27%	5	28%	4	21%	3	15%
そうでもない	0	0%	0	0%	1	6%	0	0%	0	0%
そう思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
全く思わない	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
計	22	100%	22	100%	18	100%	19	100%	20	100%

(問4) 今日の子ども会議に参加して、感じたこと、気づいたこと、考えたことなど…なんでも書いてください！

① 第1回 (※一部抜粋)

- ・話しやすい雰囲気であった。難しい議題だったけれど、考えたこともなかったことを考えられてよかった。
- ・実際に市を動かす人たちの考えをきくことができてよかった。
- ・小学生や中学生など様々な年代の人と交流できて、とてもおもしろかったです。
- ・今後、皆と課題解決できたらいいと思います。
- ・市長に会って楽しかった。はなしやすくて楽しかった。
- ・子ども会議に初めて参加したけれど、ふだん考えないことも考えられてよかった。
- ・自分では思いつかないような考えをきく事が出来ておもしろかった。
- ・SNSのトラブルはかいけつするのがむずかしいのでいっぱい考えました。
- ・クリーンセンターという身近な課題だったので、考えることができた。

② 第2回 (※一部抜粋)

- ・担当課に質問できたのがよかった。奈良市によって改善がけっこうされているとわかった。
- ・人の意見をたくさん聞けてよかった。
- ・みんな担当課にユニークな質問をしていてとても良い学びになりました。
- ・大学生とはなして楽しかった。いろいろしつもんしてためになった。
- ・自分の意見をたくさん言えた。次からも参加したいと思うし、友達も呼びたいと思う。
- ・同級生の友達の話聞くことができたりして、おもしろかった。
- ・みんなで協力して1つの課題をかいけつするのはむずかしかったけど楽しかったです。
- ・実際に話がきけてよかった。けっこう深刻で、時間や予算に制限があるけど、夢のあるはなしだった。
- ・良いものができたらと思う。
- ・インタビューできるのが楽しかった。こんどはもう少し作業スピードを上げたい。

③ 第3回(※一部抜粋)

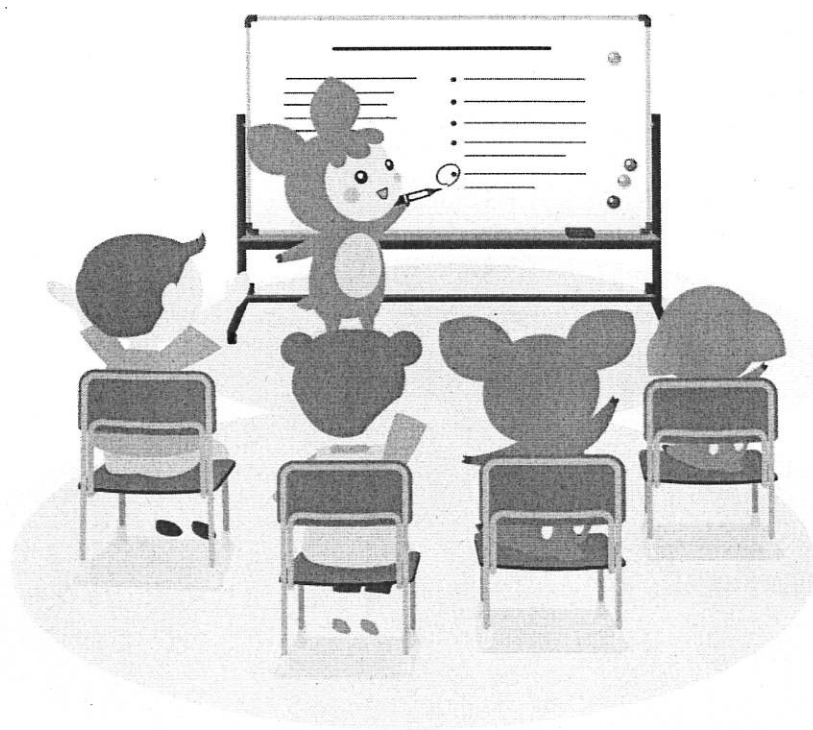
- ・今日もみんな元気に活発な意見がでていてとてもたのしかったです。
- ・時々路線が外れたものの、最終的にまとまってよかったです。
- ・グループで欠席者が多く、意見を多く出すことは難しかったけど、自分の意見を伝えることができた。
- ・現状、解決策、理想を考えて、たくさんかくことができた。
- ・グループ名をきめるのは、大変でした。
- ・他の班はどのぐらいすすんでいるか知れたし、テーマのつけ方がなんとなくわかった。
- ・ふせんで意見をだしたら、自分やみんなのいけんがよくわかった。
- ・グループ名が最高でした。小さい内から前で発表することはその子の経験として積みあげられるので良いなと思いました。

④ 第4回(※一部抜粋)

- ・もぞうしをしっかりと書いていたので、小説もイメージしやすかった。
- ・別のもぞうしも作ってくれていたので小説もかきやすかった。
- ・話し合って表紙を作る作業をできて楽しかった。
- ・1回目よりもみんなと気軽に話せた。最後もがんばりたい。
- ・意見しよをかくと、自分自身の理解がふかまった。
- ・また、前よりもはなしやすくて、良い意見がいっぱいでたので、良かった。
- ・自分とちがう人と意見をかわすのは新しい発見につながるため、良いと思った。

⑤第5回(※一部抜粋)

- ・はじめより話しやすかった。
- ・リハーサルがむずかしかったが、本番もがんばろうと思った。
- ・意見報告会は行けないけれど、その準備をみんなで協力できてすごくやりがいがあった。
- ・人数が少なく意見は言いやすかったが進ませるのがむずかしかった。
- ・次もがんばりたい。さいごやからもっとがんばりたい。
- ・表紙がじょうずにできていたのうれしかった。
- ・発表の練習も楽しかったです。



3 アンケート集計結果

全5回の子ども会議終了後には奈良市子ども会議全体を振り返ってのアンケートを子どもたちに記入してもらいました。その集計結果は次のとおりです。

回答者数 20名

(問1) 奈良市子ども会議のことを何で知りましたか。(3名から複数回答あり)

選択肢	人数	%
学校での案内	9	32%
友達や保護者からの紹介	8	29%
しみんだより	2	7%
奈良市のホームページ	4	14%
奈良市公式SNS	0	0%
チラシ	2	7%
口コミ	0	0%
その他	3	11%
計	28	100%

(その他)

・前もやっていたから 等

(問2) 奈良市子ども会議全体を通して、満足でしたか。

選択肢	人数	%
満足	17	85%
やや満足	2	10%
普通	1	5%
やや不満	0	0%
不満	0	0%
計	20	100%

(その理由) ※一部抜粋

【満足】

- ・色々な子と話せて楽しかった。
- ・一つのことについてみんなとじっくりかんがえられた。
- ・この場で話しやすいのが良かったから。

【やや満足】

- ・楽しかったがテーマがむずかしかったから。

【普通】

- ・たくさん話せた。

(問3) 奈良市子ども会議全体を通して自分の意見を言うことができましたか。

選択肢	人数	%
十分できた	13	65%
できた	5	25%
どちらともいえない	2	10%
あまりできなかった	0	0%
まったくできなかった	0	0%
計	20	100%

(問4) 子ども会議に来年もまた参加したいですか。

選択肢	人数	%
とても参加したい	14	70%
参加したい	3	15%
どちらともいえない	3	15%
あまり参加したくない	0	0%
参加したくない	0	0%
計	20	100%

(問5) 奈良市は子どもにやさしいまちだと思いますか。

選択肢	人数	%
とてもそう思う	6	30%
そう思う	10	50%
あまり思わない	0	0%
まったく思わない	1	5%
わからない	3	15%
計	20	100%

(その理由) ※一部抜粋

【とてもそう思う】

- ・子ども会議のように子ども自身で考えられるきかいがあるため。
- ・子どもの意見もきいてくれるから。

【そう思う】

- ・子ども用の施設が増えてきたと感じるから。
- ・子ども会議があるから。

【わからない】

- ・家庭によってやさしいまちといえる人といえない人がいるかもしれないから。

(問7) 奈良市子ども会議に参加して、良かったところ、悪かったところ、変えてほしいところなど、自由に感想や意見を書いてください。(開催時期、回数、場所、内容など) ※一部抜粋

- ・自分の考えを話せました。
- ・とても楽しかったです。来年も参加したいと思いました。
- ・色々な人と話をしてより知見を広めることができたと考えています。とても成長できたと思います。
- ・時間によゆうのなかったときは進むスピードが少しはよいように感じました。
- ・回数増やしてほしいです。



令和5年度

奈良市地域教育推進事業に関するアンケート調査

(報告書)

令和6年5月

奈良市教育委員会事務局 地域教育課

＜調査内容＞

1. アンケートの趣旨

本市では、平成 23 年度より「地域で決める学校予算事業」と「放課後子ども教室推進事業」を奈良市地域教育推進事業に位置付け事業を展開している。

これまでの事業に対する成果と課題を把握し、次年度の事業に生かすことを目的として、各地域教育協議会及び各学校園に対してアンケートを実施する。

2. アンケートの対象

中学校区地域教育協議会会長(21 協議会)

総合コーディネーター(21 協議会)

代表コーディネーター(95 委員会)

各学校園(管理職及び地域連携担当教員)(95 校園)

3. アンケートの実施期間

令和 6 年 2 月 21 日～令和 6 年 3 月 15 日

4. 調査内容

- ①現在の職・立場について
- ②活動する中で感じた効果について
- ③紹介したい取組や自慢の取組、新たな取組等について
- ④他団体や企業等と連携して行った活動等について
- ⑤活動する中で感じた課題について
- ⑥課題を解決するために必要なことについて
- ⑦管理職以外の教職員の事業の認知度について(学校園のみ)
- ⑧管理職以外の教職員との関わりについて(地域のみ)
- ⑨学校運営協議会の委員について(地域のみ)
- ⑩学校運営協議会と地域学校協働活動、地域教育協議会の関わりについて(地域のみ)
- ⑪学校運営協議会と地域教育協議会等の役割の認識について(地域のみ)
- ⑫今後特に必要と感じる支援について
- ⑬今後取り組みたい活動やアイデア等について
- ⑭その他事業に関するご意見

5. アンケートの回収

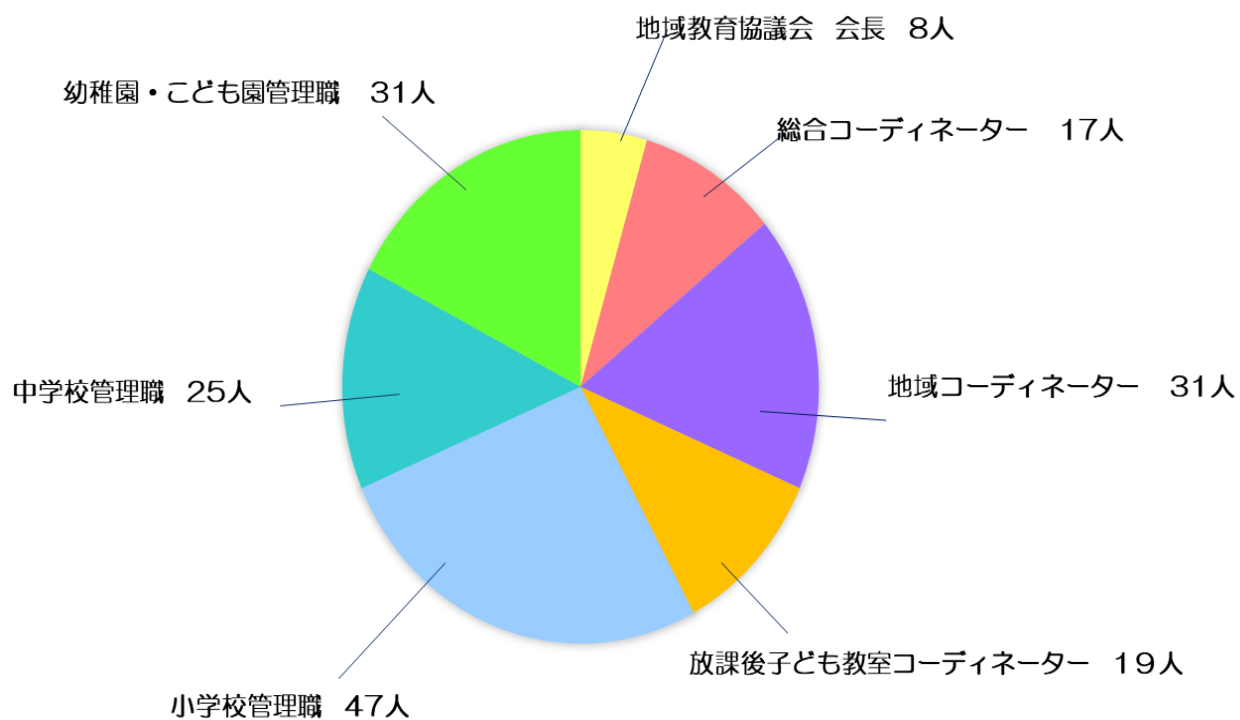
178 件の回答

令和５年度 奈良市地域教育推進事業に関する アンケート調査結果

① 現在の職・立場について

【回答数】 178 件(地域 75 件・学校園 103 件)

昨年度 127 件(地域 56 件・学校園 71 件)



② 活動する中で感じた効果について（複数回答）

地域と学校園の双方とも「子どもたちの体験や経験の場が増えた」という回答が最も多く、子どもたちに対して効果を感じている回答が上位3位を占めていた。また、地域は「地域住民のつながりが生まれた」、学校園は「家庭や地域の学校に対する理解が深まった」という回答が半数を上回ったことから、子どもたちへの効果だけでなく、事業を通して地域づくりや学校と地域の連携の深まりが見受けられた。

項目	地域（回答者数75）		学校園（回答者数103）	
	回答数	割合	回答数	割合
子どもたちの体験や経験の場が増えた	69	92%	99	96%
子どもたちの規範意識、社会性の向上につながった	34	45%	51	50%
子どもたちのコミュニケーション能力が向上した	40	53%	59	57%
子どもたちの学習意欲が向上した	24	32%	42	41%
子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった	51	68%	80	78%
教職員の負担が軽減された	10	13%	28	27%
教職員が地域連携に対する必要性を感じるようになった	28	37%	54	52%
教育環境や教育条件の改善につながった	14	19%	45	44%
家庭や地域の学校に対する理解が深まった	22	29%	58	56%
地域や家庭による学校支援活動が活発になった	20	27%	43	42%
地域住民のつながりが生まれた	38	51%	43	42%
その他（自由記述）	1	1%	1	1%
	351		603	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校園		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	子どもたちの体験や経験の場が増えた	69	92%	子どもたちの体験や経験の場が増えた	99	96%
2	子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった	51	68%	子どもたちの地域に対する理解や愛着につながった	80	78%
3	子どもたちのコミュニケーション能力が向上した	40	53%	子どもたちのコミュニケーション能力が向上した	59	57%

【その他（自由記述）】

〈地域〉

- ・子どもたちに聞くのが本筋だと思いますが。

〈学校〉

- ・地域教育担当教員の仕事量が膨大すぎて、働き方改革とは逆行している。その面から考えると必要性を全く感じない。

③ 紹介したい取組や自慢の取組、新たな取組等について（自由記述）

※同じ活動の回答はまとめさせていただいております。

〈学校〉

- ・奈良高校さんとコラボできた「わくわくフェスティバル in 奈高」で、伝統の平城高校さんとのつながりを大切にし、昨年度から奈良高校さんも全面的なご協力のもと、大々的に開催できている。
- ・若草中学校区地域合同文化講演会、未就園児のこども園体験⇒ひよこ組・わんわんクラブ
- ・都跡地域にある3つの世界遺産に今年度は園外保育としていくことができた。地域の方が付き添ってくださることで、より地域を知り、地域の方とのコミュニケーションする姿が多く見られた。
- ・環境整備活動事業花いっぱい運動
- ・地域の文化財（漢國神社）に出かけ、宮司様のお話を聞いたり境内を探索したりした。漢國神社が饅頭発祥の地ということを知り、園のおやつに和菓子ができると子どもから漢國神社のことを話題にする姿が見られた。その後奈良の名菓を食するきっかけとなった。
- ・ゲストティーチャーを招き「バランスボールで弾もう」を新たな取組として始めました。子ども達の姿勢保持や体力向上に向けて1年間取り組みました。子ども達も、魅力ある活動に生き生きとした表情で参加していました。
- ・地域の子育て親子が集う場に地域の民生委員やボランティアの方が来られることで、保護者が安心して参加でき、話ができる機会となった。
どの活動においても、子ども達が地域や様々な人と接する機会を増やしたことで、何事に対しても興味関心をもち、意欲的に参加する姿が見られるようになった。
- ・1年生で新たに、防災体験学習を取り入れました。また、学校主体で地域コーディネーターの方々とともに行う不登校支援（スマイリー）です。
- ・新たな取組として、消防団平城分団となでしこ隊に来て頂き、防災訓練を行いました。
- ・子ども達は地域・保護者と共に、世界遺産学習事業・体験活動事業で行っている蚕の飼育を通して、成長や命について、日本文化を知る等の経験をすることができ、心の成長につながった。
- ・地域の方に交通安全指導と、案内・説明をしていただきながら地域の神社仏閣や文化施設を見学したならまちたんけん
- ・4年ぶりに万年青年クラブの方々と、七夕のパネルシアターを見たり歌や手遊び、ふれあい遊びなどをしたりして交流した七夕集会
- ・体操教室・あそボール
- ・剣豪の里と知られている柳生の地を好きになる取組として「柳生剣友会」から講師をお迎えして剣道体験をしました。凜とした所作や迫力を子どもたちは魅力に感じていました。
- ・調理や裁縫実習時に、地域の方に入っている。地域のまち探検では、ガイドも行ってお下さっている。
- ・伝統ふれあい事業の和太鼓教室です。地域で活動されている宝亀殿の方に毎年来ていただいて5歳児に和太鼓の楽しさを伝えていただいています。
- ・小中学校の代表数名が集まり、未来の時間割を考える「こども未来会議」
- ・中学校の体育館で校区小学校の児童が交流した「ミニ運動会」
- ・田植えや稲刈り等、なかなか家庭では体験しにくいことを地域の方と一緒に体験でき、食育やその後の園児の作品作り等につながった。
- ・入学してまもない1年生の下校指導に付き添っていただき、とても助かりました。
- ・地域団体との水稲体験
- ・地域遺産に目を向け、昨年から地域の方に話を聞く機会を持っているが、今年度は、園外保育で地域の方と一緒に

来ていただき話を聞かせてもらった。

・地域にある近大農学部吹奏楽部との交流は、第三幼稚園の取組を引継ぎ、今年で2回目となった。保護者と共に演奏を聴くことで、親子共に感動体験を味わい、興味関心につながったことを成果と捉える。また、学生に対して園児が憧れの気持ちを高め、社会の一員として目指す姿のお手本となった。これは地域の力であり、貴重な関わりである。来年度は、学生が企画から参加できる機会をつくり、さらなる交流が深められるよう計画を立てていきたい。

・東大寺遠足・鹿寄せ … 奈良地域の歴史に触れました。

ランラン広場 … 民生児童委員さんとの交流会。

読み聞かせ … 民生児童委員さんが絵本を読んでもらったり手遊びしたり交流しました。

お話会 … 野の花お話会の方にお話をしていただき、交流しました。

お茶会 … 民生児童委員さんにお茶の指導をしていただき、交流しました。

ひよこ組・わんわんクラブ … 未就園児と保護者の方に園を知っていただき、交流しました。

ふれあい体操 … 講師を招いて、保護者と子どものふれあいの機会を持てるように指導していただきました。

防災頭巾作り … 女性防災クラブと保護者の方々と子どもたちの防災頭巾作りを行いました。

合同避難訓練 … 女性防災クラブと奈良市消防団明治分団の方々と共に避難訓練を行い、防災紙芝居を演じてくださったり、消火訓練、消防車の見学をさせて頂きました。

明治地区社会福祉協議会 … 第31回夏のふれあい大会に保護者のお手伝いも募って参加しました。

クリスマス会 … 明治小学校の教頭先生にサンタさんになっていただきました。

作品展 … 民生児童委員、学校評議員、明治小学校の方々に来園していただきました。

生活発表会 … 民生児童委員、学校評議員、明治小学校校長先生、明治幼稚園前園長先生に来園していただき、たくさんの声援をいただきました。

・地域の方によるお話しの会、地域の人と一緒にサツマイモ栽培を行う

・放課後子ども教室 アナウンス教室

・今年度においても、読書活動推進事業の一環として「朝の読み聞かせ」を継続した。ひと月に一度の取組であるが、子どもたちのためにもなり、地域の方々の学校教育への参入の場となっている。また、環境整備事業として運動場や花壇など、日常手の届きにくいところの委員会活動での手入れの助けをいただいた。地域の方がイニシアチブをとり活発な取組となった。

・コロナ禍で3年間開催できなかった「ボランティア感謝の会」を4年ぶりに開催できて、地域の方々に子どもたちの「歌声朝の会」を参観していただけた。日頃の感謝を込めて子どもたちの手作りのプレゼントも渡すことができた。11名のボランティアの方々が出席していただき、とても喜んでいただけた。

・幼稚園創立40周年記念のおめでとう会を地域の方々や保護者と一緒に行えた。地域の陶芸家をゲストティーで招き、親子で作陶をし、作品展に展示する等子ども達にとって自信につながり地域の方々に親しみをもつ活動となった。

・コロナ禍で中止していた地域の交通安全教室を実施できた。コーディネーターに、見守りも来ていただき、子ども達が地域の方と一緒に活動し、触れ合う機会になった。地区の自主防災の方と連絡を取り、園の避難訓練に参加していただいた。地域の防災倉庫のテントや担架、備蓄食料などを見せて頂いたり、体験する事が出来た。防災に対する意識が広がった。

・地域の方がされている陶芸教室にご協力を得て、子ども達が土をこねるところから、釉薬まで経験して花器をつくり、自分がつくった花器を使って、花生けを行う体験は貴重でした。日本の伝統文化に触れる機会となり、また地域や講師の方との触れ合いにもなり、とても良い取組をさせて頂きました。

・地域とともに行う環境整備事業(花植え)では、教科(技術科)と共に行う教科横断的な取組を行うことができた。また、保護者参観形式を導入し、地域に開かれた活動を一層強化することができた。

- ・小中学校とこども園が一緒に行く梅の実とりでは、地域の特産物を知り小中学校と交流も出来る。茶摘み、茶工場見学、お茶会に参加し、地域の特産物のお茶について知り、味わう機会がある。
- ・北消防署との防災学習
- ・不登校支援事業として地域・保護者で運営している「居場所」の運営について、学校に来て教室に入りづらい生徒の過ごし方として、多様なニーズに対応できる。個別に関わる時間のとれない教員に代わり運営して下さる地域・保護者の皆さまに、大変感謝しております。
- ・若草中学校区地域合同文化講演会
- ・コロナ禍が明けて各学年がお花を植えたり野菜を作ったり、今まで当たり前だったことが戻ってきたこと。これが自慢です。
- ・150 周年記念事業、各学年の 1 年間の取組を地域の方に伝える。自分たちの未来を花火に託し、地域の方とともに鑑賞する。
- ・学習支援について数々の取組ができた。
- ・今年度は放生会に参加
- ・アルミ缶回収活動・・・毎月、中学生が地域から集められたアルミ缶のリサイクル活動を行う取組で、得た収益金で、地域の施設へ車いす等の福祉機器を寄贈している。
- ・無形文化財「祭文」について、知る、体験する、来校者に紹介する。学校を花いっぱいにする花植え集会
- ・創立 150 周年を迎え、地域の方が本当にご尽力いただき、すばらしい式典や集いの 1 日になりました。
- ・長年やっている読書活動推進事業は、値打ちがあると思います。「継続」は力なりだと思います。
- ・年間を通した米作り活動(しめ縄作り、大とんどを含む)
- ・キャリア教育、防災教育講演会及び避難所体験
- ・コーディネーターさんを中心に、学校図書館を継続的に整備してくださっていること。コーディネーターさんを中心に、絵本の読み聞かせを継続的に行ってくださっていること。継続的というのが魅力的な活動だと考える。
- ・地域とつながるなかで、地域の方が持つておられる力を貸していただき、体験的な授業につながった。(米作り、和楽器紹介、小物作り、闘茶会、剣道体験)
- ・自慢の取組は学校ボランティア様の整美活動です。教職員でできない活動を、毎月 1 回やっていた。地域観光につながるポスターを総合で作成、そのポスターを観光協会様に掲示していただき、新たな取組の礎になった。次年度は、図書ボランティアも募集予定。
- ・本校では、コーディネーターを中心として地域の方のご理解の上に子どもたちの学校生活が成り立っています。新しい事業など、いつでも「やろうやろう」という前向きな雰囲気があります。今年度も、また来年度も新規事業を企画していますが、いちばん自慢したいのはそれらの取組よりも、そんな雰囲気です。
- ・放課後子ども教室の取組は、地域主体でどれも自慢です。
- ・地域と連携した行事「ふれあい広場」を 4 年ぶりに実施できたことが最大の成果である。コロナ禍以前より規模は大幅に縮小したが、こども園、小学校、中学校の子どもたちが一同に会し、中学生が演じる「大柳生太鼓踊り」、ジャスパー瀧口氏による「マジックショー」を鑑賞することができた。
- ・事業の評価
- ・地域学習 赤膚焼体験を 5 年生が行いました。
- ・とみにゃんフェスタが盛大に開催されたこと
- ・昨年度から始まった、奈良高校を会場に、奈良高校生の部活動、平城東中学校の部活動、小学校の放課後子ども教室が一堂に日ごろの活躍を披露、体験させる「わくわくフェスティバル in 奈高」、近隣の世界遺産をめぐる「歴史ウォーク」。

・SAKURA 夢フォーラム、SAKURA 夢フェスタ

〈地域〉

・社会福祉協議会を通してポッチャ体験をした。子どもたちは、いつもと違う大人の指導を素直に聞いて楽しんでいた。大学生との交流は、実習として関わっていたので回数も多くとても良かった。

・地域交流事業として栽培活動では、苗植えから収穫、収穫した野菜を味わう取組を行った。

(サツマイモ: 苗植え、水やり、芋ほり、焼き芋パーティ、大根: 収穫、タケノコ堀りと玉ねぎ: 苗植え)

・保育支援事業では、女性防災クラブの方に防災紙芝居をしていただき、避難訓練を行った。

・小中一貫教育小規模校サミットが行われた。

・4 年ぶりの「史跡散策 (&どんぐりひろい)」では話題の富雄丸山古墳に出向き専門家からの地域の歴史を学び参加者から大好評であった。・「京中にあつまれ！ポッチャ大会」では初めて審判をつとめた子どもたちの真剣に取り組む姿から周りの大人が元気をもらった。・新しい図書ボランティアさんの人脈を活かして急きょ開催した「絵本原画展」が評判をよび中学校区内を巡回することになり 5 校園すべての子どもが本物の作品に触れることができた。

・文化講演会

・28 年続くアルミ缶回収 家庭地域学校がひとつになって！！・伝統芸能の継承 5 年生 6 年生で続けられている・学校、園と地域が一緒に運動会が再開など。

・ふるさと学習、紅花染体験⇒卒業生へプレゼント プロジェクトを中学 1 年生、2 年生、地域住民がともに取り組むことが出来た。

・子どもたちが伸び伸びと自由な発想で放課後教室に参加する取組の推進

・地域と学校園を結ぶ立場として、機会をとりえ積極的に両者をつなぐ活動を続けている。これまでの顕著な活動は、朱雀放課後子ども教室の運営、平城東中学校区地域教育協議会と平城高校および奈良高校を結ぶ立場としての活動、朱雀小家庭科授業・4 年生車椅子体験学習・平城東中高齢者疑似体験学習の支援などがある。中でも学校園の要望により地域回覧で募集した朱雀こども園・朱雀小の環境ボランティア、朱雀小の図書ボランティアは長年児童・子どもたちの学習環境を整える活動を続けてくださっている。

・地域住民と児童生徒が協力して行う体育祭(地域住民全員参加)

・烏梅を使った紅花染体験

・アルミ缶回収活動(収益は福祉機器を地域の施設に贈呈)

・9 月に防災教室を実施。消防士さんに AED の使い方を教わり、実際に参加者全員が心臓圧迫を体験。その後、災害で断水が起きた場合の 2L のペットボトルの水の使い方について、話し合った。

・学校での野菜(さつまいも等)や花を地域の方と協働で植え育てることで、皆が一体感を持ち一緒に育てたという満足感と充実感を共有できた。地域のふれあい祭で地域・学校・生徒との一体となった協働事業が出来上がった。

・小学校の授業サポートには、年間でのべ 400 名のサポーターが参加してくれた。学校園サポーターの LINE 公式アカウントを作成し、地域や保護者の登録を呼びかけ、学校から授業サポートの依頼があれば一斉に呼びかける。人数調整等は大変だが、学校が必要とするサポートに応えられていると思う。

・防災教育活動において、企画から中学生・高校生・大学生が参加し大人と意見を出し合って避難所宿泊体験活動を実施できました。

・教職員の方々が参加した夏祭りは、地域での学校の存在意義を確認することができて、地域力の高さを感じました。「学校」と「家庭」と「地域」がさらに連携を深めることによって、現代の社会問題になっている「不登校」や「ヤングケアラー」への対応ができればいいと思います。

・ビブリオバトル

- ・新しい取組として、拡大教室「しいたけを育てよう」を開催しました。しいたけの原木に菌を植え付ける作業をアドバイザーさんに教えてもらいながら、楽しく行うことができました。参加者は成長具合を確認しに行っていて、収穫を楽しみにしています。
- ・「おもしろ理科実験教室」を地域の先生(アドバイザー)と奈良高校化学部の生徒さんとのコラボレーションで開催。各テーブルに高校生のお兄さん、お姉さんが入って丁寧にサポートしてくれました。実験も先生方の少し頭を使うもの、生徒さんたちの見てすぐにわかるものとバリエーションがあり、参加者はキラキラした眼で見入っていました。
- ・今年度も地域行事「すざく音楽祭」「キッチン・カー・フェスタ」、平城東中学校・校区行事「わくわくフェスタ in 奈高」に「音あそび」・「ハワイアンフラ」の各教室が出演しました。「わくわくフェスタ in 奈高」では音あそび教室の演奏と奈良高校コーラス部の歌声と素敵なコラボレーション、ハワイアンフラでは可愛いダンスに、会場の皆からたくさん拍手を送っていただきました。地域のみなさんに日頃の練習の成果を発表し、また、交流を深めることのできた一日となりました。今年は生徒の皆さんから地域をより知りたいと申し出があったようで、片側通行でなく、双方向での開催であることが嬉しく思えた。
- ・コロナ禍で参加出来なかったバサラ祭りに参加した。
- ・絵手紙教室:32名の児童が数点描いた中から1点を提出してもらい、佐保台文化祭や奈良市の1F廊下に展示し、地域住民とのつながりに供し、PRすることができた。
- ・ラジオ体操や七夕、餅つき大会などに加えて今年は地域のお祭りで絵本原画展を企画しました。残念ながらお祭りは雨天中止になりましたが、学校園を巡る原画展は開催できました。地域の学校園をつなぐ素敵な企画になったと思います。また子どもたちの原画を見た時のキラキラした笑顔忘れられません。このような地域一体になって出来る企画を今後も継続できたらと思います。
- ・今年度、初の試みであった帝塚山自治協議会主催の帝塚山フェスタに、以前学校で飼育していたひつじの毛を使用した羊毛クラフト体験会のブースを出店して中学部の生徒たちにも店番やお手伝いをしてもらいました。地域の方々との交流を深める事ができました。
- ・地域の指導協力を得ながら実施している太鼓踊りでは地域との繋がりもできいいと思う。
- ・しめ縄作りは数十年続く事業で、わらの入手も難しくなりつつある中、地域の方の協力で継続できている。新しい活動として、福祉センター、社会福祉協議会との共済で地域の高齢者の方々との交流もできた。
- ・今年度は、本格的な活動というよりは、これまでの活動(コロナ前)までの物に戻すことや、この約4年の空白期間で繋がりが薄れた物を再編する機関になったように思います。当地域では、やはり文化や歴史を強く感じて頂ける場所という事や、お城だった場所など、いまでは建設することは不可能な場所にある学校も多いので、その縁や、歴史上の人物などと絡めた講演会などは、毎年好評を頂いています。
- ・子ども達が主体的に取り組む事を目的として花苗植えを中休みを利用して声かけにより集まった子どもたちと一緒に地域が活動しました。係だからとか委員だからではなく、主体的に学校の環境整備に関わりたと思ってくれる児童が増えてます！
- ・今までは、単発の教室の開催でしたが、今年度は月に一回、子どもたちが自由な発想で遊ぶことのできる「あそ部！」を開設しました。地域の方に協力いただき、竹を切っているいろいろなものを作ったりしています。まだまだ子どもたちの発想を引き出すために工夫が必要だと思いますが、じっくり物作りや遊びに取り組むことを学んでほしいと思います。
- ・地域と共に取り組む防災学習支援、地域の商店へ訪問しインタビューするまち探検、住んでる地域から見る歴史、福祉体験、図書活動
- ・KISS ボランティアの取組。子どもたちに課題を出し、一緒に考えて自分は何ができるかを考え行動することを目的として行っている。

- ・とみにゃんフェスタでの国際交流体験
- ・図書ボランティアは長年継続して進めている取組だが、図書環境整備はもちろん、読み聞かせや並行読書なども行っている。今年度は新たに、本物の絵本の原画を5校園全ての子ども達に見てもらう機会を作ることが出来た。図書室の掲示も毎月工夫して行っているが、今回初めて六条小・伏見南小・京西中で「羽ばたけ翼プロジェクト」と題して、卒業・入学をお祝いする子ども参加型の取組を行った。在校生に羽に好きな色を塗ってもらい、みんなのあたたかい気持ちのこもった羽を図書室ボランティアが1枚1枚張り合わせて大きな翼に仕上げた。掲示が楽しみです。また、4年ぶりに復活した富雄丸山古墳への史跡散策、どんぐりプロジェクト、ボッチャ大会は、5校園の学校園・地域・保護者が一緒に楽しめる取組なので今後も継続していきたい。
- ・カッキーくん、しぶおくん、つるしくんと渋柿に学ぶ事業にはキャラクターがいてそれを塗り絵にし、小さな子どもも事業に興味を持てるようにした。
- ・毎年開催していた菜の花プロジェクトお花見会を制限なしで2023年開催する事ができ、沢山の児童・保護者が参加してくれて、楽しそうにしている顔を見ることができて嬉しかったです。
- ・コロナ禍の中でも継続して活動する中から、二名中校区活動の原点、①渋柿に学ぶ②寺子屋の学び、から枝葉がたくさん伸び、どんどん進化しています。また、授業のカリキュラムに私たちの地域活動が入っています。また、二名公民館、各連合自治会の防災活動と二名中学生徒会を中心に防災を学び、いざとなった時の二名中学生徒たちの助けを意識づけできる取組を進化させています。また、学習支援として不登校の子どもたちの見守りも学校としっかり連携を取りながら密に進めるようになりました。重なりますが、私たちの原点の活動を原点として、常に見直し、しっかりと共通の理解を持って活動しています。
- ・奈良市西部地域の芸術祭に「とみきたダンスと歌」が出演出来て、子どもも大人も一緒に大喜びでした。
- ・「ロボット教室」は中学校のクラブ活動に支援につながり、先生の負担減と子どもの新たな学びにつながった。
- ・CSと地域教育協議会の会議を合同にした。
- ・ラインアートなど絵画活動、マリンバ鑑賞、ダンス体験などの音楽体験、年度で干支制作
- ・コロナでできなかったことが出来るようになりました。わんぱく広場で、中学生に来てもらいバドミントンの指導をしていただくことができました

④ 他団体や企業等と連携して行った活動等について（自由記述）

※団体で同じものは、まとめさせていただいています。

団体名	活動名
奈良市ソフトボール協会	あそボール(ソフトボールを使用した遊び)
特定非営利活動法人グラミーゴ奈良三笠	ドッジボール教室
ソレステレージャ 2020	サッカー教室
NTTドコモ ドッジボール日本代表選手	ドッジボール大会
ひみちゃん(声優アイドル)	チコちゃん体操
バブル体操教室	体操教室
エンジョイボッチャチーム	ボッチャ大会
NPO法人 きららの木	ボッチャ大会
レオソルススポーツクラブ	スポーツ鬼ごっこ
スポーツコミュニティーセンターAMI	軽スポーツ
奈良県社交ダンススポーツクラブ	ダンス
日本フィットネス協会	体操
自治連合会・自主防災防犯会 女性防災クラブ	防災訓練、防災教育、地域清掃活動
奈良市北消防署	防災教育
Uni Com奈良学生ボランティア	防災学習、学習支援(中学)
奈良教育大学ボランティアサポートオフィス	防災学習
村田製作所 近畿日本鉄道 シャープ特選工業 近畿運輸局 ALEX綜合法律事務所 ならドットFM 奈良新聞 他	キャリア教育
アンガーマネージメント協会 エンドオブライフ・ケア協会	いのちの学習、いのちの授業
獣医師会・助産師会	性教育、いのちの授業
奈良市聴覚障害者協会	キャリア教育
大学生協力(奈良教育大学・天理大学・奈良県立大学・帝塚山大学、近畿大学)	学習支援(小・中学生)、ゲームあそび(小学生)、工作
第一学院高校奈良キャンパス	放課後のあそび
県立野外活動センター	放課後子ども教室学習、レクリエーション活動
奈良高等学校	フェスティバルの開催
GROOVE CONNECT ドラムサークル	ドラム体験

生駒市民オーケストラ	コンサート
てんもんぶ	科学教室
平城ニュータウン楽しい理科実験研究会	理科教室
自治連合会 公民館 社会福祉協議会、万年青年クラブ 社会福祉団体	まち探検、放課後子ども教室 土曜活動 防災活動、防災教育、アルミ缶回集、もちつき、とんど、ラジオ体操 フードバンクについての学習、昔あそび体験など
梅溪保勝会、梅の資料館	梅干し、梅シロップづくり
地域趣味グループ	交流活動(和太鼓・押し花・お茶体験、読み聞かせなど)
月ヶ瀬梅寿会連合会	梅寿会との交流会(昔あそび、グランドゴルフ、絵手紙など)
地域おこし協力隊	紅花染
秋篠会さくらの会	ふるさと学習
春日大社	雅楽教室
スーパー中村屋、Msキッチン	学区ブランド産品販売依頼
奈良・人と自然の会	環境保全、自然との共生の体験、農業体験など
輪和建設株式会社	木工で遊ぼう
英語でアート事務局	日本語を使用せずにアート作品の制作
西奈良ロータリークラブ	ダンスクラブ・合唱クリスマス発表会・凧作りなど協賛
イオンモール学研奈良登美ヶ丘店	クリスマスイベント開催
ナルク	菜の花プロジェクト
奈良市立写真美術館・CANON	写真撮影会、メタバース美術館への展示
奈良商工会議所	労働について学ぶ
電子自治アドバイザーリーチーム	パソコン教室
音声館	大型紙芝居
葛城煙火株式会社	花火づくり
能楽 金春流	能鑑賞
茶業振興協議会、奈良手もみ茶振興会	お茶の学習、闘茶会

⑤ 活動する中で感じた課題について（複数回答）

地域からも学校からも「活動における人材の不足」の回答が過半数を超える結果となった。自由記述にも「人材の高齢化」があげられている。また、「コーディネーターの負担が大きい」、「コーディネーターやボランティアの方々との連絡調整による教職員の負担増」や「土・日・祝日等の活動や会議による教職員の負担増」の回答も次に多くみられることから、この事業に関わる担い手の不足が深刻化していることが伺える。

項目	地域（回答者数75）		学校園（回答者数103）	
	回答数	割合	回答数	割合
事業に対する学校・教職員の理解が不十分	20	27%	20	19%
コーディネーターやボランティアの方々との連絡調整による教職員の負担増	10	13%	36	35%
土・日・祝日等の活動や会議による教職員の負担増	6	8%	33	32%
学校における活動拠点（地域ルーム等）の設置など受け入れ体制が不十分	5	7%	15	15%
学校の期待する活動内容が明確になっていない	8	11%	8	8%
コーディネーターと学校との連携が不十分	7	9%	9	9%
コーディネーターの研修や養成が不十分	4	5%	6	6%
コーディネーターの負担が大きい	24	32%	32	31%
ボランティアの負担が大きい	9	12%	18	17%
活動における人材の不足	52	69%	59	57%
教育委員会と学校や地域社会との連携が不十分	18	24%	8	8%
学校支援活動について学校と地域が話し合う機会が少ない	13	17%	10	10%
事業に対するPTAや保護者の理解・協力が不十分	22	29%	15	15%
事業に対する地域社会の理解・協力が不十分	9	12%	6	6%
課題は感じなかった	3	4%	18	17%
その他（自由記述）	4	5%	11	11%
	214		304	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校園		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	活動における人材の不足	52	69%	活動における人材の不足	59	57%
2	コーディネーターの負担が大きい	24	32%	コーディネーターやボランティアの方々との連絡調整による教職員の負担増	36	35%
3	事業に対するPTAや保護者の理解・協力が不十分	22	29%	土・日・祝日等の活動や会議による教職員の負担増	33	32%

【その他(自由記述)】※同じ内容の回答はまとめさせていただいております。

〈学校〉

- ・①必要なことに対して、必要に応じて柔軟に費用が出せない。②学校内で起こる事象(生徒指導、保護者対応など)に対して対応している教員(管理職も含め)の人数が限られているのに、この事業に対してかけていられる時間が無い。③地域の方もやってくれる人は決まっていりしかも限られ、高齢になられた方が大半で、今の学校現場との現状や感覚のずれが大きいのに、その連携や調整にかかる時間がもったいなく、結局負担が増えている。④地域教育課がこの学校現場の現状を分かるべきだと思う。⑤この状況が変わらないのに、この事業を続けてもらうことが学校にとってしんどい。
- ・地域を挙げての交流の場(ふれあい広場)への参加体制が難しい(交通手段、時間的など)。
- ・事業を進める上で必要な事務作業の多さ
- ・地域のコーディネーターさんは熱心に活動していただいているが、会計の取りまとめや事務局会の準備・段取り等がほとんど中学校の教員が主体になっている。事務的なことも地域のコーディネーターさんに協力していただけるとありがたい。
- ・書類等作成の負担
- ・人材の高齢化
- ・教員の負担が大きく、必要性を感じない。

〈地域〉

- ・地域の思いと学校の思いがかみ合わない。
- ・地域教育協議会の知名度不足
- ・事業における PTA、保護者の積極的な協力・参加がもう少し欲しいです。
- ・子どもたちのための活動をしたいのに、全く関係のない事務的な事に時間を取られるのが心から不愉快である。この事業のスタート時には、事務的なこと(領収書など)、学校との連携、バンビーホームとの連携などは、地域教育課が責任を持って遂行しますと宣言したはずなのに、現状は全く遂行されてないことは、信じ難い事実である。

⑥ 課題を解決するために必要なことについて（複数回答）

前の項目の課題でもあがっていたように、地域も学校園も、「次世代の人材発掘と育成」を課題解決に必要とする回答が突出している。次点は、「教職員とコーディネーターの情報交換の充実」であり、課題解決のために、教職員とコーディネーターの話し合う場が必要であると同える。

項目	地域（回答者数75）		学校園（回答者数103）	
	回答数	割合	回答数	割合
教職員とCNの情報交換の充実	30	40%	24	23%
他校区のCNとの情報交換の充実	15	20%	5	5%
学校園の教育方針等についての意見交換の機会の充実	13	17%	6	6%
年間を見通した事業の計画	12	16%	17	17%
学校園における活動拠点（地域ルーム等）の設置等の受入体制の充実	5	7%	12	12%
事業に関する広報（広報誌やWebページ）の充実	21	28%	13	13%
地域教育協議会等主催の教職員を対象とした報告会や研修会の充実	6	8%	8	8%
地域教育協議会等主催の保護者を対象とした報告会や研修会の充実	7	9%	4	4%
地域教育協議会等主催の地域住民を対象とした報告会や研修会の充実	8	11%	4	4%
次世代の人材発掘と育成	54	72%	68	66%
その他（自由記述）	6	8%	13	13%
	177		174	

回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校園		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	次世代の人材発掘と育成	54	72%	次世代の人材発掘と育成	68	66%
2	教職員とCNの情報交換の充実	30	40%	教職員とCNの情報交換の充実	24	23%
3	事業に関する広報（広報誌やWebページ）の充実	21	28%	年間を見通した事業の計画	17	17%

【その他（自由記述）】

〈学校〉

- ・この事業自体を見直す。地域教育課が主導して地域の方と連携し、それぞれの学校現場を理解し、この事業がどうあるべきなのか計画しなおしてほしい。
- ・こども園独自で動ける交通手段の確保
- ・提出書類の簡略化
- ・実質的な教頭業務量の軽減のために、市としての啓蒙活動

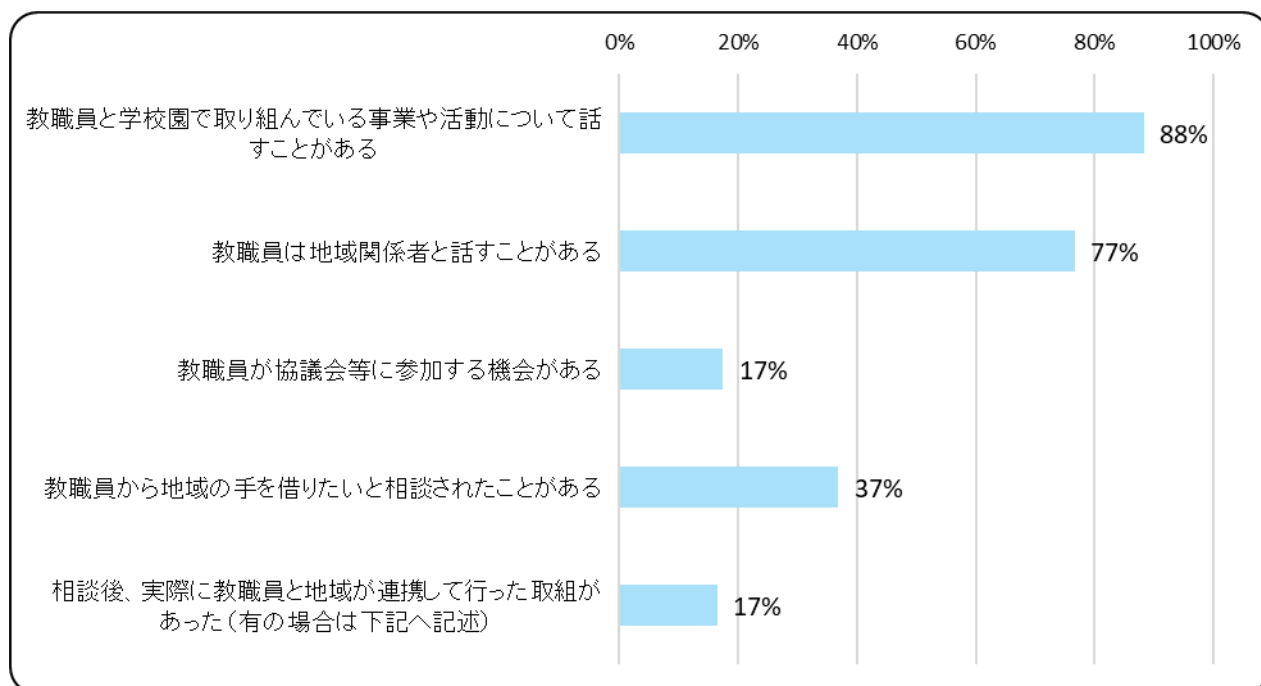
- ・奈良市教育委員会地域教育課は、教職員へ連絡調整の電話メール会議をはじめ予算執行のための負担を増やしていることに気付いてほしい。減らすための工夫をしていただきたい。
- ・教職員の多忙による打合せ時間の不足 教員不足 地域主体になっていない。
- ・日常の忙しさで職員間での打ち合わせが不十分なケースもあるのに、地域関係者と打ち合わせをしたり、事業関係団体と打ち合わせをしたりと、教員の働き方改革につながらない。
- ・多様な学びを得られる体験活動を実施し、地域交流の拠点となる本校の多目的室のエアコン修理(数年前より地域教育課や教育総務課に依頼をしているが、修理ができていないため、夏季を中心に活動しづらい状況にある。)

〈地域〉

- ・働き方改革が進む学校園の教職員と共に「今、必要なサポート」を少子高齢化の地域が支え続けるこの事業は、奈良市の財産であり、長い時間かけて築いた地域活動は様々な体験の場を子どもに与えている。このことを教育委員会全体で共有し理解を深め校長はじめ教職員が地域連携を有効に活用できるよう支援してほしい。
- ・閉鎖的な学校気質。地域で決める学校予算の意味を理解していない。
- ・教育委員会の現場視察や実際の事業実施の内容の理解が不十分であることから、事業実施に際してのやりにくさが改善しない。
- ・担当課による活動の視察と理解。会計処理のルール緩和
- ・地域の会議や行事が負担。研修や協議会会議に参加できない時間帯にあることが負担
- ・奈良市及び地域教育課が本来の目的をしっかりと認識し、仕事を遂行すること。

⑦管理職以外の教職員の事業の認知度について（学校園のみ）（複数回答）

「教職員と学校園で取り組んでいる事業や活動について話すことがある」という回答が88%であったことから、学校園での地域教育推進事業の認知度が高いことがわかる。また「教職員が地域関係者と話すことがある」という回答は77%あり、学校園での地域の活動が浸透している様子が伺えた。しかし、「教職員から地域の手を借りたいと相談されたことがある」は、37%と低下し、「相談後、実際に教職員と地域が連携して行った取組があった」の回答はわずか17%であった。このことから事業や活動は知っているが、地域と連携して取組にまでつながっていないケースがあることが伺える。



学校園（回答者数103）		
項目	回答数	割合
教職員と学校園で取り組んでいる事業や活動について話すことがある	91	88%
教職員は地域関係者と話すことがある	79	77%
教職員が協議会等に参加する機会がある	18	17%
教職員から地域の手を借りたいと相談されたことがある	38	37%
相談後、実際に教職員と地域が連携して行った取組があった	17	17%

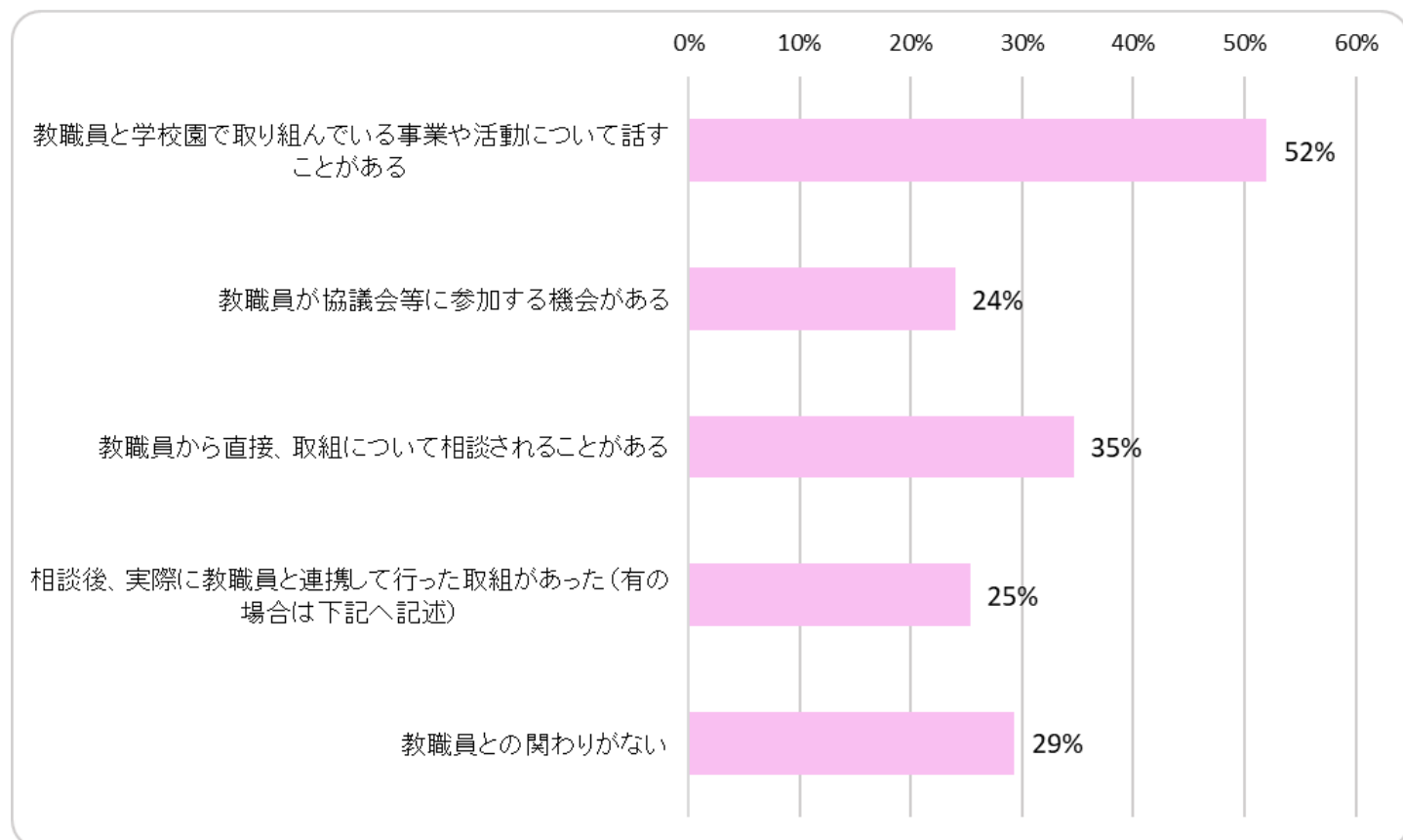
【取組の例】

- ・こども園との交流について話し合いをもち実際活動に参加した。
- ・学年ごとに授業で使う資料本を廊下に並べる並行読書、学校図書館の環境整備、福祉体験学習サポート、昔遊び体験学習、昔の生活調べ学習、七夕まつり、ラジオ体操、校内美化活動（花植え等）
- ・年度の最後にお礼の会を実施したいと相談を受け、今年度サポートいただいた地域と保護者の方に呼びかけ、来ていただく。
- ・初めて彫刻刀を扱う4年生の図工の授業で安全見守り

- ・今年度の原画展は校長先生と教頭先生のご理解、協力のもとに開催が実現した。
- ・7年生のキャリア教育でのゲストティーチャーの依頼
- ・ふれあい広場についてどのように進めていくかを相談した。
- ・偶然しめ縄作りの開催日に、一般教職員が出勤されており、飛び入り参加され、「子ども達の授業に取り入れたい」と相談を受け、その後実現した。
- ・地域学習の赤膚焼体験や社会見学の引率、読み聞かせなど、教職員からの依頼によって活動する事ができた。
- ・図工の時間において彫刻刀を使うということへの見守り、補助、指導の協力、まち探検で商店へインタビュー訪問
- ・防災教育のゲスト講師(Web 講演)の確保、性教育分野の取組相談、ゲスト講師の確保、キャリア教育プログラムのアレンジ他
- ・文化部への出演依頼について、地域教育協議会が窓口となり、顧問と折衝したり、生徒の引率など
- ・昔の人の暮らしの中で、もちわらを使って縄をなってみる体験(青和小学校3年)
- ・主に学習支援ボランティアで、オープンチャット内で家庭科実習のお手伝いや1年生の朝顔チューリップの花植えのお手伝い、並行読書の面展示(六条小学校)
- ・毎月テーマにそった図書の面展示、わかばレストラン(京西中学校)
- ・支援学級の子どもたちへの柿渋染め体験(二名小学校)

⑧ 管理職以外の教職員との関わりについて（地域のみ）（複数回答）

地域関係者は「教職員と学校園で取り組んでいる事業や活動について話すことがある」との回答が52%あり、「教職員から直接、取組について相談されることがある」は35%、「相談後、実際に教職員と連携して行った取組があった」の回答は25%であった。実際に取組まれた活動は、図書環境整備や授業支援、地域学習などで、教職員へ事業の周知を図るために地域と合同研修を行なうところもあった。「教職員との関わりがない」という回答は29%。前問と比較すると、地域と学校園の事業に対する意識に差があるため、地域と学校園がさらに情報共有できる場を設け、事業への理解を深めることが求められる。

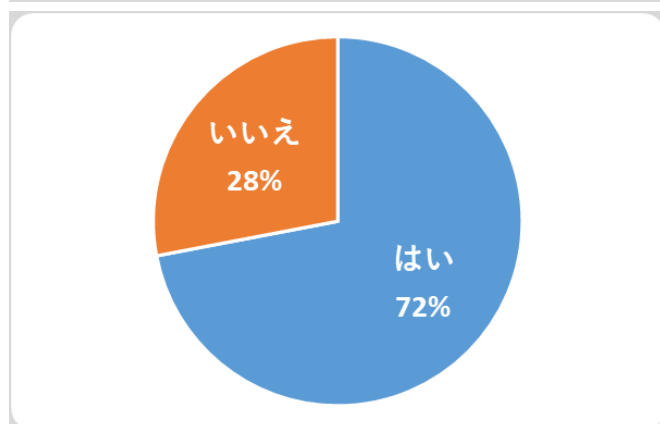


地域(回答者数75)		
項目	回答数	割合
教職員と学校園で取り組んでいる事業や活動について話すことがある	39	52%
教職員が協議会等に参加する機会がある	18	24%
教職員から直接、取組について相談されることがある	26	35%
相談後、実際に教職員と連携して行った取組があった	19	25%
教職員との関わりがない	22	29%

【取組の例】

- ・防災食作り体験、福祉体験学習
- ・救急救命に関わる研修
- ・飛鳥フェスティバル
- ・服のカプロジェクトへの参加の協力と、梱包の手伝い
- ・マラソン大会交通安全立哨、水泳学習の安全確保
- ・地域の工務店から大工さんにきていただき、図工で使うのこぎりの使い方を教えてもらう(4年生)。
- ・伝統音楽と楽器の学習(5、6年生)
- ・図書館の整備
- ・地域の清掃活動と一緒に参加した。
- ・家庭科ボランティア 読み聞かせ
- ・地域の昔の様子や安全の取組について話していただいた。
- ・地域学習のゲストティーチャー招聘
- ・三者懇談時の部活動の見守り
- ・事業に対する教職員への周知を図るため、夏季休業中に地域合同研修を行った。
- ・短時間で顔合わせ程度であったが、その後地域の方にボランティアの依頼をするなどつながりができた。
- ・漢字検定の準備、手配、片付けなど

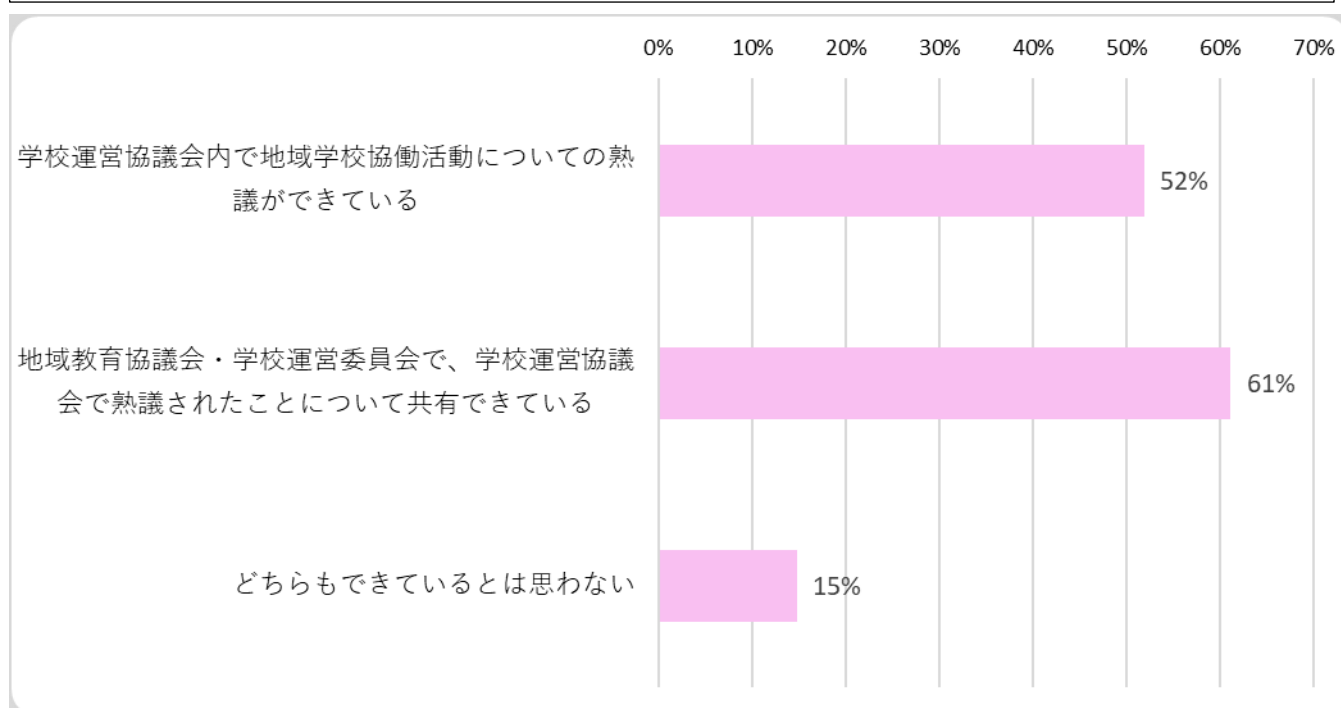
⑨ 学校運営協議会の委員を委嘱されていますか？（地域のみ）



地域（回答者数75）		
項目	回答数	割合
はい	54	72%
いいえ	21	28%

⑩ Q9で「はい」と答えた方にお聞きします。（あてはまるもの全てを選択してください）
（地域のみ）（複数回答）

「学校運営協議会内での地域学校協働活動についての熟議ができている」との回答が 52%にとどまっている。「地域教育協議会・学校運営委員会で、学校運営協議会で熟議されたことについて共有できている」の回答は 60%を超えているものの、「どちらもできていない」との回答が 15%あることから、学校運営協議会と協働活動の連動が不十分と感じている学校運営協議会委員が一定数いることがわかる

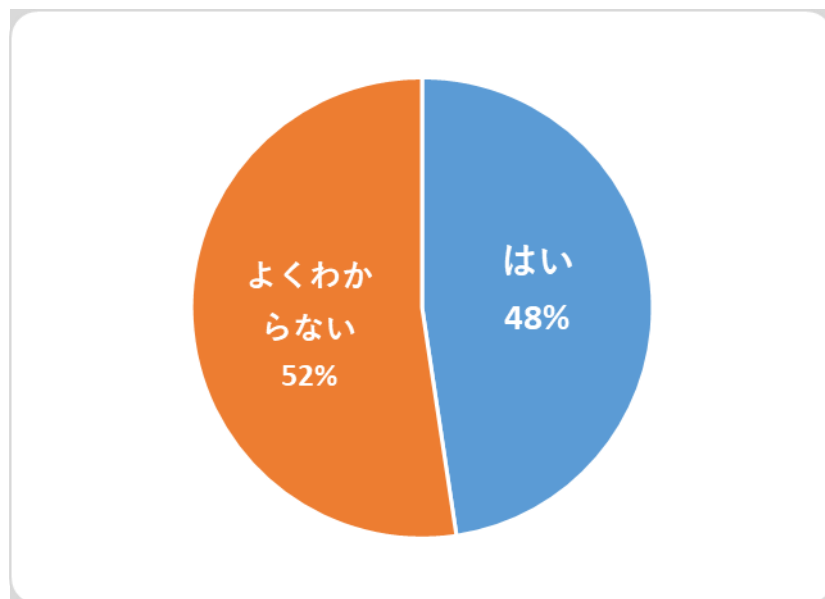


地域（回答者数54）		
項目	回答数	割合
学校運営協議会内での地域学校協働活動についての熟議ができている	28	52%
地域教育協議会・学校運営委員会で、学校運営協議会で熟議されたことについて共有できている	33	61%
どちらもできていない	8	15%

⑪ Q9で「いいえ」と答えた方にお聞きします。

学校運営協議会と地域教育協議会及び学校運営委員会の役割の違いが理解できていますか？

(地域のみ)



地域(回答者21)		
項目	回答数	割合
はい	10	48%
よくわからない	11	52%

よくわからないと返答の方

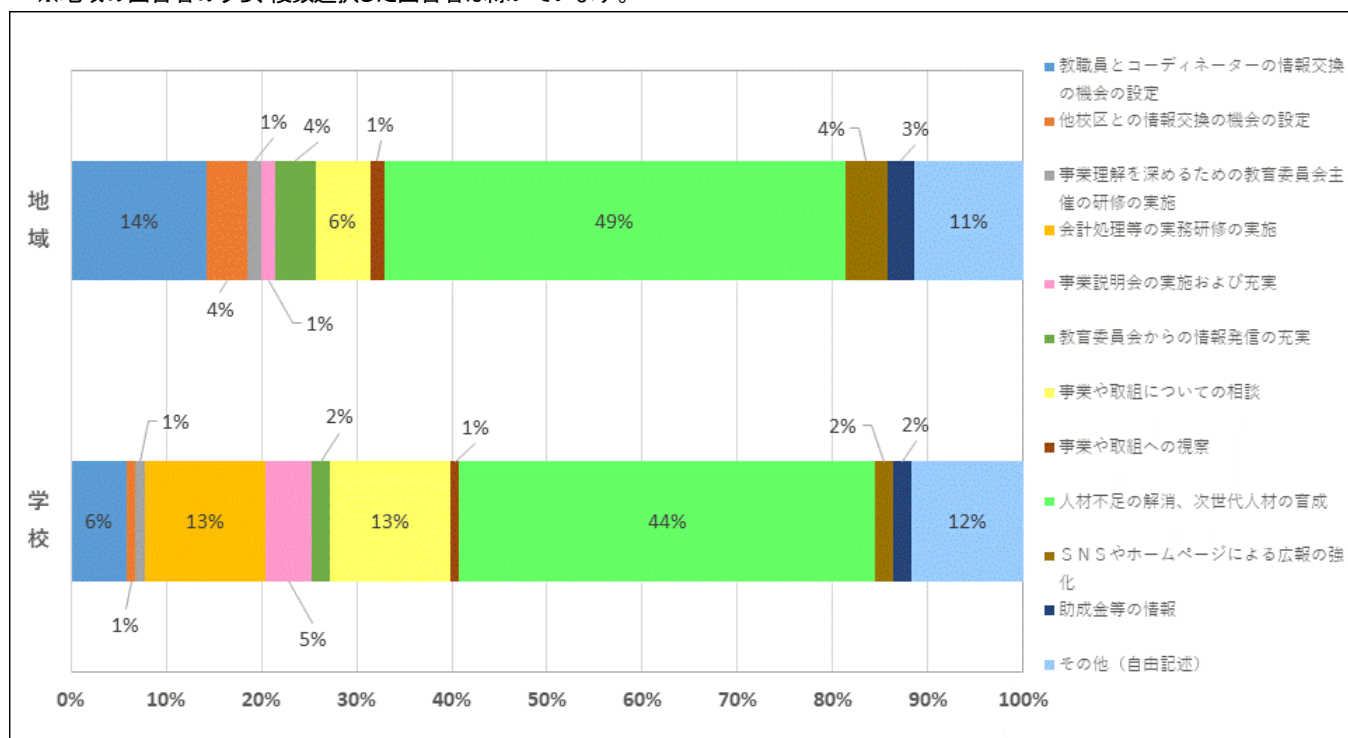
- ・何回か研修を受けているが、自分自身がこれが違うといったものがわかっていないため。
- ・分けている理由がわからない。実際に放課後の活動や地域教育協議会の活動を全く知らない方たちが、地域の役職で学校運営委員会にはいっているので、うまくいくはずがない。
- ・学校運営協議会がないから。そもそもなぜ、幼稚園は学校評議員で、学校は学校運営協議会なのか、どうして違うのかわからない。教えてほしい。
- ・4月に地域教育協議会に入りましたが、コミュニティスクールとの関わりがあまり分かりません。
- ・私の勉強不足だと思います。

⑫ 今後特に必要と感じる地域教育課の支援について（一つのみ選択）

地域教育課に求める支援として、地域、学校ともに「人材不足の解消・次世代の人材育成」が半数近くを占め、最も多かった。学校回答の次点が「会計処理等の実務研修の実施」「事業や取組についての相談」となっていることや自由記述から、学校は、事業に対する実務軽減のために必要な人材の育成や確保を求めており、本事業に対する学校の役割に大きな負担を感じている現状がわかる。一方、地域回答の次点は「教職員とコーディネーターの情報交換の機会の設定」であることより、コロナの影響で途切れた交流の機会の必要性が感じられる。

項目	地域（回答者数75）		学校園（回答者数103）	
	回答数	割合	回答数	割合
教職員とコーディネーターの情報交換の機会の設定	10	14%	6	6%
他校区との情報交換の機会の設定	3	4%	1	1%
事業理解を深めるための教育委員会主催の研修の実施	1	1%	1	1%
会計処理等の実務研修の実施	0	0%	13	13%
事業説明会の実施および充実	1	1%	5	5%
教育委員会からの情報発信の充実	3	4%	2	2%
事業や取組についての相談	4	6%	13	13%
事業や取組への視察	1	1%	1	1%
人材不足の解消、次世代人材の育成	34	49%	45	44%
S N S やホームページによる広報の強化	3	4%	2	2%
助成金等の情報	2	3%	2	2%
その他（自由記述）	8	11%	12	12%
	※70	100%	103	100%

※地域の回答者のうち、複数選択した回答者は除いています。



回答数が上位3位までの項目

順位	地域			学校園		
	項目	回答数	割合	項目	回答数	割合
1	人材不足の解消、次世代人材の育成	34	49%	人材不足の解消、次世代人材の育成	45	44%
2	教職員とコーディネーターの情報交換の機会の設定	10	14%	会計処理等の実務研修の実施	13	13%
				事業や取組についての相談	13	13%
3	事業や取組についての相談	4	6%	教職員とコーディネーターの情報交換の機会の設定	6	6%

【その他(自由記述)】

〈学校〉

- ・事務作業の軽減を十二分に考え、現場の負担を減らすこと。
- ・本務も大きな残業時間で負担が多い中、このような事業は学校が受けなければならないのか。それならば人員が不足している。
- ・事業を計画することから決算まで、この事業自体が負担になっているので、地域教育課が主導して地域の方と連携し、予算、計画、決算までを行う。
- ・地域教育課が動いていくことは難しいのですか？学校が中心となることには違和感があります。
ただ一方で「お願い」レベルで扱う事業ではないと思います。やはり行政が中心にいるべきではないですか？
- ・十分支援を頂いております
- ・研修 説明会ではなく地域担当人材の派遣→→学校委託ではなく外部委託化
- ・事業に専念できる学校職員の確保
- ・地域から学校ではなく、学校が主体となって自由に選んで使えるお金を増やしてほしい。
もっと手軽に学校や地域が 元気になるはず。そのような特区を作してほしい。奈良市の中で一番元気な学校・元気な地域にすることができる自信がある。
- ・報告様式や諸書類の簡素化、人員の配置をお願いしたいです。
- ・保護者への啓発 地域の方はあくまでボランティアです。
- ・事務処理等の簡略化及び支援
- ・事実上、学校管理職が多くの事務を担っていることへの理解と、事務負担軽減のための手続きの簡素化等を実行すること。

〈地域〉

- ・教育委員会各課の横の連携
- ・事業が始まっているのに、事業費がふりこまれていない。3 学期が残っているのに、そうそうに決算しなければいけない。なんとかしてください。
- ・地域性を理解いただきたい
- ・「支援」？この発想がそもそもおかしいでしょ！
- ・運営委員長が校長先生にもかかわらず、放課後子ども教室の存在を理解されていないと感じる。
一般教職員だけでなく、管理職も理解していないので、その方々に研修や広報をしてほしい。
- ・各学校の取組の違いを把握しておいて欲しい。

⑬ 今後取り組みたい活動やアイデア等について（自由記述）

〈学校〉

- ・地域と協力して、子どもの活躍できる場所や居場所の確保
- ・探究学習への地域からの協力
- ・より多くの地域の方との交流回数を増やし、地域力を生かした事業に取り組んでいきたい。次年度はごみやリサイクルについて話を聞き、「環境」や「エコ活動」に興味関心をもてるような機会を作っていきたいと考えています。
- ・放課後の学習支援
- ・学校、PTA、地域とが協同した現在行っている保護者対象の会合等の活動を広げていきたいです。
- ・園庭開放の時間や長時間保育の時間に、地域の方と子どもたちが自由に遊べるような機会をたくさん作っていききたいと思います。
- ・朝食提供
- ・不登校生徒の居場所づくり
- ・地域の方々の教育力をいかした活動があれば、取り組みたい。
- ・英語に親しむ活動
- ・今の形で十分です。
- ・地域文化祭
- ・地域の方に、フルート等の楽器を持ち寄って演奏されているグループがあると、教えていただいた。生で楽器の演奏を聴く機会がなかったので、来年度園で演奏会をしていただき、楽器に親しむ経験をし、豊かな心を育めるようにしたいと考えている。
- ・小中学校との交流をもっと積極的に進めていきたい。
- ・今後は、地域の良さを知り地域の方と親しみをもてるよう、地域への園外保育の実施なども行いたい。
- ・自主防災に対する保護者や園児の意識を広げる、命を守る方法を子ども自ら身につけ、地域の方と一緒に取り組む。日本の伝統文化に触れて遊びに取り入れる。（わらべうた、生け花、着物を着るなど）
- ・飼育活動があまり行われていないことから、地域の方とともに、身近にある小さな昆虫等を飼育できる環境を整え、子ども達が興味・関心を示しながら、大切に育てていく体験を通して、命の大切さを感じられるような取組を実施していきたいと思います。
- ・試算試算での各校が取り組む予定の活動です。
- ・本校で計画推進している、「探究学習活動」における、地域の方々の参加
- ・心花さん（校区の花屋さん）と連携してキャリア教育を実施。・・・縦割り活動で花の栽培から販売までを一貫して行う。（原価計算・流通リサーチ・広報活動等）
- ・生徒の自己有用感の向上につながる内容。
- ・これ以上増やせない。
- ・地域のことをもっと知っていく活動、学校自慢・地域自慢につながる取組
- ・働き方改革との整合性は、永遠の課題だと思います。本当に、難しいです。そのため、これ以上、新しいアイディア等となると負担も大きく感じてしまいます。
- ・アイデアはたくさんあるが、仕事量を考えるとあれこれ広げていくことは難しい。
- ・今年、地域防災とコラボをした防災参観を行ったが、今後も地域とともに防災連携活動を取組みたい。
- ・新規事業として報告した通りです。
- ・やりたいことがたくさんあるが、先生方が疲弊している中、これ以上取組を増やすことは難しい。

- ・来年度も基本的には今年度と同様の取組を軸に実施していきたい。

なぜなら、どの活動も児童の育成において意味のあるものであり、大きく変える必要がないと考えるからである。

ただ、今年度あまり実施しなかった事業については見直していく。また、地域人材の枯渇は大きな問題である。そこで、少しでも本事業を周知し、参加してもらえる体制とすべく、地域住民と子どもたちで校区のキャラクターを作成し、様々な活動に関連づけていくことを考えている。少しでも地域人材を増やし、本事業に賛同いただき、児童らと繋げる役割を担えればと思っている。学校が地域の拠点となり、地域活性化となる事業を行う中で、地域・保護者・教員が一体となり、児童の育成を行うことが理想である。そのために、学習支援活動や環境整備を継続して実施し、地域の魅力的な人と子どもたちを繋げ、辰市小学校運営委員会が目指す子ども像に迫りたい。

〈地域〉

- ・地域の人材活用をして、子どもたちにいろいろな経験ができるようにしたい。例えばまほろばカルタを体験するなど。
- ・特に防災訓練などは、参観日や公開日にするなど工夫することで、親子が一緒に体験することで共通理解ができ、生きた防災教育になるのではないかと考えます。
- ・古代のボードゲーム「かりうち大会」、楽しく体を動かす体操教室、学校に行きにくさを感じる子どもを持つ保護者サロン
- ・教育過程では経験できない社会活動への参画に取組みたい。
- ・学校園と地域との具体的なつながり活動を広報し、より身近なものとして認識してもらうようにしたい。
見聞きしたものに対する親近感が、お互いの距離を縮め気軽に参加できる環境につながっていくように努力したい。
- ・地域産業を生かした事業の充実
- ・課題をクリアしてもらえれば、卒業イベント、新入生歓迎イベントがバンバンできます。
- ・子どもが企画した文化祭みたいなものを、学校を借りてやりたい。
- ・青空図書館
- ・こども、保護者、高齢者の交流を兼ねた居場所づくりの推進
- ・これからも子供たちの興味あるもの、好奇心を掻き立てる教室を実施していきたいと思っています。
- ・こどもも大人もつどえる居場所を小学校に作りたい。
- ・いろいろあります。
- ・園児や生徒と一緒に楽しめる体操、簡単な歌
- ・現在している活動を充実させていきたいです。
- ・小学校の登校前、親が仕事に行ってしまうから、登校まで時間が出来てしまう子どもが見受けられるようになってきているのでそこについて何かしたほうが良いのか、考え中です
- ・同じ中学校区の他放課後子ども教室と共済でイベントを開催したい。
- ・自分の持ってるスキルを活かせるような活動ができたらと思います。元々、お習字や化学に興味を持ってもらえるような活動がしたいと思ってコーディネーターになりましたが、他の雑用に追われて本来やりたいことがあまりできていないように思います。富雄北小学校では難しいですが、放課後に毎週できる活動ができたらいいなと思います。
- ・新規事業は検討中
- ・不登校問題に対する理解を深めるための取組
- ・ゆるキャラの商品開発
- ・不登校児への居場所づくりとよりそい
- ・しっかりと常に同じ視点で協働して働ける管理職が継続していて欲しいこと。

・いつも私たちに求められている事と、出来る事を考えて活動していると、自然に活動画出来てきます。

来年度は中学校 40 周年記念でもありこれを上手く使い、学校の紹介を生徒と一緒に「メタバース空間」で学校紹介を創る予定

・教職員との交流会

・学校運営委員会の通常開催

・子どもが楽しく活動に参加できるように考えています。

・わんぱく広場で西大寺大茶盛をしてはどうかという意見が出たのですが、コロナ前よりもグッと値段が上がっていて開催できそうにありません

14 その他事業に関するご意見

〈学校〉

- ・教頭職は、学校運営に関わって様々な業務を同時に行う必要があり、場合によっては、授業等も行っている。時間外勤務時間も多し中、本事業の主軸として働かざるおえない状況である。何とか負担を減らすようお願い申し上げます。また、地域の方が中心となって事業を実施するような施策にしてもらえることを願っています。また、地域の方も高齢化に伴い、疲弊しています。次の担い手もいません。
- ・いつもありがとうございます。学校が様々な負担感を感じている中、地域教育課の皆様におきましては、この事業を進めるのに、大変な気苦労があるかと思います。地域の子どもたちをよくしていく大切な事業だと考えております。これからも、地域にとって学校にとって良い事業になるよう、お願いいたします。
- ・コーディネーター・ボランティアの精神的負担が大きすぎます。保護者への啓発を急いでいただきたいです。また、年々予算の使い方が難しくなって、事業のために予算があるのか、予算のために事業があるのかわからなくなることがあります。物価が上がっているにもかかわらずあらゆる予算が削られる中で、「これはダメ」ではなく、「こういう形でどうでしょう」と相談し合える関係であるといいなあとと思います。
- ・国からの助成金なので、ある程度の規制はしかたがないと思うが、広い中学校区では児童生徒が活動のための移動手段に出してもらえないお金が出ないので、地域にまかされているならば、もう少し柔軟に使えるようにお願いしたい。
- ・入金が遅くて困っています。自腹で建て替える意味がわかりません。
- ・学校現場の働き方改革に則した事業内容。地域教育課が考える推進と働き方改革は、共存できるのだろうか？
- ・働き方改革との整合性は、永遠の課題だと思います。本当に難しいです。
- ・放課後子ども教室事業と地域で決める学校予算事業の一元化
- ・規模縮小を。
- ・事務作業の軽減をお願いしたい。（書類作成等）
- ・他の地域がどのように取り組んでおられるのか知りたいです
- ・今年度ありがとうございました。来年度もどうぞよろしくお願いいたします。
- ・地域協議会、地域コーディネーターの方などが地域と幼稚園をつなぐ役割をうまく担ってくださり、子どもや保護者にとって安心して豊かな体験ができ、楽しむことができていることに感謝している。また、地域教育課の指導も的確で、質問等には丁寧に対応してくださるので、事業を進めやすかった。
- ・事務処理が簡単になればよいと感じます。
- ・園児は、地域の方やゲストティーチャーの方と触れ合い親しみをもてる関係づくりから始まり、その次に様々な経験の成果が見られるようになります。毎年同じ活動にはなりますが、内容は子ども達の実態を踏まえ、地域の方やゲストティーチャーの方と相談しながら貴重な経験となるように取り組んでいます。園児数は、減少していますが、取り組む内容は変わりませんので、できる限り例年通りの予算をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
- ・このようなアンケートを実施する以上、結果をもとに反省点や改善点を明確にし事業の見直し等を行う必要があると考えるので必ずフィードバックを行っていただきたい。
- ・地域で決める学校予算の仕組みが事業のやりにくさや負担を大きくしている気がします。
- ・ボランティアの方への報償費の増額。もしくは福祉サービスを受けられるなどあれば、協力依頼もしやすい。
- ・今後、働き方改革を踏まえた、持続的な内容を推進する必要がある。
- ・菜の花プロジェクトでは地域コーディネーターの方々の協力が大きく、助かっています。
- ・会計事務について、来年度は今年度と変わっている点が大きいように思い不安に感じます。簡単な質問でも相談に乗っていただければありがたいです。

- ・学校と地域が協同し様々な取組を行うことが出来た今年度でした。来年度も更にどのようなことが出来るのかを協議し取り組んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました
- ・予算の使いみちの縛りが強く、正直取り組みたくない。その予算を使わなくても、地域との連携を行うことができる。
- ・事業に関してまだまだ理解不足な点も多くご迷惑をお掛け致しますが、引き続きよろしくお願い致します。
- ・事業費の使い方について具体例を出して説明してほしいです。
- ・今後も事業を通し地域の方と共に子ども育てに努めていきたい。
- ・予算についてはできるだけ、各協議会で融通が利くようにお願いしたいです。

〈地域〉

- ・地域団体の活性化を支援する取組
- ・少ない課の人数できめ細やかに対応してくださっていること、心より感謝しております。
何度か他校区との交流の機会を計画してくださっていますが、盛沢山すぎて時間切れの感があります。同じような事業展開をしている校区と校区を結び、紹介してくだされば自主的にコンタクトを取り、より有意義に情報交換することができそうな気がします。
- ・協働、連携って、むずかしい。
- ・事業予算の柔軟使用(目的外)を認めていただきたい。
- ・Q13 について→事業説明会は時間が限られていていつも不完全燃焼で終わってしまう。せっかく各校から担当者が集まる貴重な時間なので、もっと質疑や意見交換の時間が欲しい。会計ルールが厳しく、活動が制限される場面が多々ある。もっと柔軟に対応していただきたい。もっと事業に対する視察と理解をお願いしたい。協働しているという感覚があまりない。
- ・土日開催が多いので、参加人数が年々減少している。開催の形態を見直していかなければならないと感じる。
- ・SNS などでの情報発信のやり方を教えていただく機会があればぜひ参加したいです。
- ・LINE の公式アカウントの月額使用料を予算から出せるとありがたいです。
- ・地域で決める学校予算事業内容について、根本的に見直す時期が来ていると感じる。
- ・教室数が多いからかもしれませんが、安全管理員として手を挙げてくださる保護者の方々(PTA は強制というのではなく)が、もう少し増えて欲しいと思っています。他の学校ではどのように声掛けされているのでしょうか？
- ・今回交流の集い作業部会に参加させていただきました。作業部会(特に反省会)での雑談中に、各団体の悩みや取り組みをちらりとうかがえたりしましたので、そのようなコーディネーターが、リラックスしたざっくばらんな雰囲気の中で話して、情報交換できる機会があれば良いのになと思いました。
- ・コーディネーターや教職員も一緒に事業をすすめる会議
- ・他校園の活動の詳細共有がもっとできればいいなと思います。
- ・会計処理はプロに任せたい!予算も裁量もなく、ややこしだけあるのは辛いと思います。活動そのものが今ひとつ、ふわっとしたまま、活動している。地域コーディネーターって何?と聞かれた時に説明できない自分がいます。
- ・教員との時間を持ちたいが教員不足のため十分な時間的余裕が無い。教員人材の補充を常にできる状態にしてあげることで安心感もあり、心の余裕も生まれるのでは？
- ・会計が年度当初にしっかり組み立てられていないとのことですが、私たち民間人が事業を行なっていく上で、計画通りにいかない場合止めるということはしたくないので、流用についてももう少し緩和してほしい。
- ・今奈良市では自治協議会をすすめておられますが、推進のためのパンフレットやチラシに地域教育協議会の記載はありません。地域の中で重複して皆さん役割を担っていらっしゃるのでわかっていらっしゃる方も多くはありますが、この事業は学校を通じて地域を繋ぐ役目もあると思っています。子どもも無く学校園と関わらない世帯では、存在すらも知ることもないように思います。市からの配布物で、記載ない事は活動している私達は学校だけの属物だっ

たのかと、モチベーションも下がりますし、市の横の繋がりや情報共有ないのはどうかと感じます。

・この事業も15年、マンネリ化が強くなってきました。奈良市で新しい人材(コーディネーター)が全く育っていません。

(集いの集会で強く感じました)

・いつもありがとうございます。

・色々な面で地域の中学生に期待している。

令和5年度協働事業評価表

事業名:	旧鍋屋交番きたまち案内所の運営管理
貴団体名:	鍋屋連絡所の保存・活用と“奈良きたまち”のまちづくりを考える会(なべかつ)

協働することで見えた課題や協働相手である行政に対して求めること	なべかつの「事業評価」について
	例年のことで、これまで不満ながら適当に対応してきましたが、「協働」への市の全体的な対応が変わっていかないので今年度はそもそもの「協働」の「評価」について下記の3点意見を出すことにさせていただきました。ご検討ください。なお、窓口となっていた奈良町にぎわい課の方々とは非常にいい関係で「協働」させていただいていると思っております。
	○「対等性」について 特にこたわっている点は、事業実施について市が前提としている「対等性」を評価すべしとして「事業評価表」の記載を求めていることです。 例えば、なべかつでの案内所の管理運営は、市が方針を提示するのではなく例年「なべかつが案内所の管理・運営の事業方針を市に提示」することになっている。これは非常に優れた方式で、私たちの方針を市が追認する形を取っているから、なべかつ会員が公益性に配慮しつつ主体的かつ自由に管理運営できる。この方式だからこそ市に対する責務や義務感でやるのではなく、それぞれの事情の中で適度に楽しみながら無理をしない範囲で充実感や満足感をもちながら取り組める。 また、他の例では、なべかつの方式とは逆に市が提示した事業や仕組みに市民が申し込むことで協働している例もある。この場合も申し込まれた市民の方々は単に義務感でやっておられるのではなくおそらく充実感を得、楽しみながらやっておられると思われる。
	この二つの例での市との「対等性」をどう見るのか。事業評価が前提としている「対等性」は組織同士の「対等性」を問っており「お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか」を問っているが、評価する事業の実施について「対等性」を評価するのであればどんなことをどのように進めるかを対等に上下関係なくパートナーとして議論できているかどうか(あるいは進めているか)を問っているはずである。しかし、先の二つの例のように取り組み内容や方法は例えばなべかつが市に提示して市が追認しているようにそもそも「対等」に議論又は実施しているわけではない。結局のところ、単に組織や人を尊重しているかどうか(=「お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか」)を問っているのだけではないか。もしそうであれば「対等か」と問うのではなく「尊重しているか」と問えばすむ。
	市と市民が実施している協働事業の内容や事業の進め方・方法及びそこに向けた議論や実施は、相互の関係が「対等」でない場合が多数ある。むしろ「対等」でない場合の方が多い。多様な市民の協働を市民の意欲や遣り甲斐に依拠して豊かにかつ多面的な分野で多様に発展するためには「対等」かどうか重要とは言えない。「対等」でないことをいいとか悪いとか評価する姿勢自体が、下記の理由で逆に多様であるはずの協働の発展を阻害しているのではないか。 市と市民との協働は多様な形態が考えられるが、その多様性を尊重すればするほど、協働するそれぞれの市民が希望する内容や充実感が得られる可能性が広がり、結果として市と市民の多様な協働が広がる。かつて全国各所で起こり始めた市民活動について、特に初期の段階でしばしば喧伝された「市と市民は対等であるべき」との理念が重要だからと言って、その事にとらわれて実施する事業についての「対等性」を大前提として市民協働を評価するとの立場に拘れば拘るほど、結果として協働の多様性が阻害されるのではないか。むしろ評価すべきは、協働する市民側の主体的な意欲とか遣り甲斐であって、その視点が正面から捉えられれば捉えられるほど協働の幅が広がり協働の内容が多様で豊かになる。 要するに、どちらかの「上下関係」は事業の内容や位置づけとの関係で整理されるはずで、市民側が提起した事業を市が追認する形式もあれば市が提起し市民がその提起の範囲内で自主性・主体性を発揮しながら協働する場合もある。また、両者が最初から協働して提起し相互の関係についても確認しながら進める場合もある。いずれにしろ事業が始まる最初の段階でそれぞれの立場や事業内容、進め方といった基本的な方向性や相互の関係といった「対等性」に関する基本的な整理は終わっているはずで、事業開始段階で終わっていることに対して毎年毎年「お互いに上下の関係ではなく、パートナーとして対等な関係を保つことができたか」と「評価」すること自体意味がない。市が何十年も前の高圧的だった過去の反省に拘るのなら「対等性」を問うのではなく、どのような協働事業であっても市は高圧的ではなく「市民活動や活動する市民を尊重する」立場で関わったかどうかを問えばいい。(一方、市民や市民団体が市に対して種々の要望をすることは十分に保障されるべきで、市民側には市を他者のように捉えて「市民は市を尊重したか」という「評価」はない。これをすれば市民によって構成される自治(及び自治体)そのものを否定する本末転倒の議論になる。) 以上のことから「事業評価」に記載されている(上下関係等の)「対等性」を評価することが「協働」を適切に評価することとは思えない。いつまでも、同じような「事業評価」を、しかも、市から先に「事業評価」を提示するのではなく各団体側に「事業評価」を先に依頼するような「対等」ではない対応をすることは、市、団体側相互に無駄な業務を増やしている面も含めそれぞれの市民の希望に適合した多様で豊かな市民協働の発展を高めているとは思えず、逆に阻害していることになる。 要は、事業開始の段階で整理できるはずの「対等性」について、その確認がどこでされているのか不明なまま毎年「対等性」が問われ、記述した「事業評価表」が協働の発展に向けてどのように活用されているのか説明もなく「事業評価表」の記述依頼だけが各団体に送付されることの繰り返しではなく、「事業評価」のあり方そのものを再度検討いただきながら、取り組む一人一人の意欲が尊重され市民協働が多様で豊かに発展するような議論ができることを期待しています。
	○「評価表」が各取組の多様性に依拠しない固定的・画一的な内容であること 多様であるはずの協働を、多様性に依拠しない一律の様式で固定的・画一的に評価している。しかも、数値では目標を設定しないことにしているに我々に対しても一律の「目標値」を設定している。画一的に一律評価したいという行政側の都合で「評価表」を決めているだけではないか。
	○何の相談や協議もなく、当初一方的に「目的」や「目標値」が設定され、しかも我々とは違う「目標」が設定されていた(形骸化した担当者のやつつけ仕事になっていたのではないか)
	以 上

令和5年度 アダプトプログラムに関するアンケートまとめ
(回答数 52)

●活動に参加していてよかったことを選んでください。(複数選択可)

地域がきれいになった	43
地域の親睦が深まった	29
運動・健康に役立っている	20
自然に触れる機会が増えた	13
地域への愛着心が深まった	23
特に無し	0
その他	6
無回答	4

その他の意見

- ・花壇に花が植えられて周りがきれいになった。皆さんに楽しんでもらっている。
- ・活動を通して、高齢者の健康状態を把握し、日常会話も増えた。
- ・花を植えた場所に散歩に来る人が増えた。
- ・車や歩いてる人との挨拶の機会が増えた。

●活動をしていて困っていることを選んでください。(複数選択可)

メンバーの高齢化	34
担い手不足	31
刈払機など専門的作業ができるメンバーの不足	7
団体の運営が難しい	4
近隣住民とのトラブル	1
活動予算の不足	7
特に無し	4
その他	9
無回答	3

その他の意見

- ・活動の参加者が亡くなってしまった。高齢化。
- ・夏場の水やりに苦労している。坂を上って水を運ぶのが大変。
- ・ボランティア協力者がいない。
- ・道具購入が自治会の負担で毎年増額になってきている。
- ・トング、手袋等の用具の斡旋をしてほしい。
- ・袋の支給条件が厳しく、自前で調達している。

●市からの支援に満足していますか。
(満足以外を選んだ方は次の質問にもお答えください。)

満足	28
どちらでもない	16
不満	5
無回答	3

●現在の支援以外に、市にどのような支援策を望みますか。

- ・現地確認と意見交換の場が欲しい。
- ・季節ごとの花苗の支給。
- ・奈良市ポイントの付与、報奨金の増額。
- ・ボランティア活動の意義と現状についての啓発。
- ・樹木の多い地域の道路は、市で落ち葉の除去をお願いしたい。

●当課で発行している情報誌「りろば」を知っていますか？

毎号読んでいる	29
知っているが読んだことはない	13
知らない	5

●りろばに取り上げて欲しい内容等ございましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ゴミの分別の意義や処理方法。
- ・高齢化が進み、空き家が徐々に目立つ中で街を活性化する方法のヒントがあれば取り上げてほしい。
- ・各団体の取り組みの成功例など。
- ・アダプトプログラム活動の紹介やアダプトプログラムのメンバー加入の啓発。

●その他、ご意見・ご要望等がございましたらご記入ください。

- ・高齢化が進み参加出来る人がなくなり、今年活動できたのは3名であり、一回の作業時間が長くなったが頑張っている。
- ・18年前に放置された道路脇のプランターに花いっぱい咲かせたいと有志3人で始め、途中から報奨金を頂き助かっている。今年はひまわりの会を奈良市から表彰して頂き嬉しかった。ありがとうございました。
- ・アダプトボランティアで活動している事がわかる様なワッペンかタスキを配布してもらえると有難い。
- ・この1、2年歩道の劣化報告に対しよく対応してくれていると思う。今後も現地確認のうえ、補修等お願いしたい。
- ・参加者が少なく、なかなか思うように活動が出来ない。
- ・事業の内容、現在活動している参加団体と活動地域について、市のホームページで見れるようにしてほしい。地図上に活動されている地域と協力を仰ぎたい地域をマーキングしたものがあればと思う。
- ・事務手続きを簡略化し、取り組みやすくしてほしい。
- ・報奨金を見直してはどうか。団体規模ごとの対応や支給方法の簡素化等。
- ・作業用の工具を支援して頂きたい。
- ・街路樹の手入れをしてほしい。
- ・高齢化が進み、活動規模を縮小せざるをえない。
- ・更新申請、実績報告ともに代表者の情報を手入力するのは手間であるため、団体番号を入れるだけで申請できるとありがたい。

●市との協働についての自己評価

回答数： 48 団体

番号	評価項目	合計 点数	平均点数
1	市に対して気兼ねなく相談や提案をしながら活動に取り組むことができましたか。	170	3.5417
2	活動場所の美化を維持するために、自主的に活動できましたか。	212	4.4167
3	事業の目的や趣旨を十分理解した上で申請することができましたか。	199	4.1458
4	お互いの役割（市の支援や美化活動の内容）を理解して、活動することができましたか。	195	4.0625
5	活動について、ホームページや会報等を使って情報を発信できましたか。 （例：周りの人たちに、りろばを共有する等）	150	3.1250
6	自分たちのやり方にこだわり過ぎず、効果的な方法があれば柔軟に受け入れ、組織をより良くしていく姿勢をもって取り組むことができましたか。	165	3.4375
7	年間を通して、活動場所の美化を推進できましたか。	214	4.4583

協働の原則に基づいた評価項目		点数
対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。	4
相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。	4
自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。	4
自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。	4
目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。	4
相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。	4
公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。	3
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。	3
期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。	4
評価点		

令和5年度 グリーンサポートに関するアンケートまとめ
 (回答数 52)

●活動に参加してよかったことを選んでください。(複数選択可)

地域がきれいになった	41
地域の親睦が深まった	37
運動・健康に役立っている	20
自然に触れる機会が増えた	10
地域への愛着心が深まった	16
特に無し	2
その他	3
無回答	1

その他の意見

- ・綺麗な公園だからと他の地区の人からも利用されていること。
- ・公園がきれいになった。

●活動をしていて困っていることを選んでください。(複数選択可)

メンバーの高齢化	45
担い手不足	28
刈払機など専門的作業ができるメンバーの不足	15
団体の運営が難しい	4
近隣住民とのトラブル	3
活動予算の不足	8
特に無し	2
その他	5
無回答	1

その他の意見

- ・花をもっと多く育てたいが、資金が不足している。
- ・若手の活動参加意欲に欠ける。
- ・公園利用者のマナーやモラルの欠如。

●市からの支援に満足していますか。

満足	20
どちらでもない	26
不満	4
無回答	2

●現在の支援以外に、市にどのような支援策を望みますか。

- ・物置を追加で欲しい。
- ・緑袋を通常の透明袋へ変えてほしい。
- ・公園を綺麗に維持するために活動資金の見直しを検討してほしい。
- ・自走式草刈機の貸出時の運搬等も含め、より活用しやすい仕組みなどの充実を願う。
- ・80歳超メンバーが多く、体力的にきつい作業になってきている。グリーンサポートは本来奈良市の業務であるとの認識の自治会員が多く、募集しても集まらない。奈良市からもグリーンサポート制度の周知、メンバー募集を呼びかけてほしい。各自治会へ効果的に継続的に働きかけてほしい。
- ・遊具の点検。
- ・公園のベンチの数を増やしてほしい。
- ・日陰になる場所を作してほしい。
- ・草花や樹木の支給。
- ・自走式草刈機の手入れ。
- ・市のホームページに活動で生じた要望、依頼を申請できるフォームを作成してほしい。現場の写真などを添付することができるため、効率よく内容を伝えることができるのではないかとと思う。
- ・悪質な不法投棄に対して防犯カメラの期間限定の設置要望。
- ・公園利用者のマナーやモラルの向上のための広報。
- ・軽トラックの貸出し。

●当課で発行している情報誌「りろば」を知っていますか？

毎号読んでいます	27
知っているが読んだことはない	10
知らない	4

●りろばに取り上げて欲しい内容等ございましたら、ご自由にご記入ください。

- ・ゴミの分別等の注意事項。
- ・活動内容の紹介。
- ・ボランティア加入啓発。
- ・活動での注意点等。
- ・グリーンサポート活動で美化整備された公園の紹介。
- ・人材確保をした事例の紹介。
- ・活動従事者の感想等を取りあげてほしい。

●その他、ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

- ・公園の出入口を安全に出入りできるようにしてほしい。
- ・草刈機の購入費用がほしい。
- ・グリーンサポートで出たごみを通常のゴミ回収でもってほしい。
- ・市からグリーンサポートに参加するよう地域住民に広報してほしい。
- ・木の収集要件に30cm以下に切断とありますが、40cm～50cmに変更できないか。
- ・ボランティア活動と充分認識して行っているが年間の作業負担を考えたら、報酬金の見直しをしてほしい。
- ・本自治会では、グリーンサポートの活動は、非常によく機能しており、公園の美化整備に大きく寄与している。また、公園の美化整備は、防犯にも重要な役割を果たしていると考えている。引き続き、奈良市の支援をお願いしたい。

●市との協働についての自己評価

回答数： 51 団体

番号	評価項目	合計点数	平均点数
1	市に対して気兼ねなく相談や提案をしながら活動に取り組むことができましたか。	190	3.7255
2	活動場所の美化を維持するために、自主的に活動できましたか。	228	4.4706
3	事業の目的や趣旨を十分理解した上で申請することができましたか。	207	4.0588
4	お互いの役割（市の支援や美化活動の内容）を理解して、活動することができましたか。	204	4.0000
5	活動について、ホームページや会報等を使って情報を発信できましたか。 （例：周りの人たちに、りろばを共有する等）	189	3.7059
6	自分たちのやり方にこだわり過ぎず、効果的な方法があれば柔軟に受け入れ、組織をより良くしていく姿勢をもって取り組むことができましたか。	188	3.6863
7	年間を通して、活動場所の美化を推進できましたか。	230	4.5098

協働の原則に基づいた評価項目		点数	質問番号
対等性	互いに対等の関係を保つことができたか。	4	1
相互理解	互いの立場や特性を相互に理解し尊重したうえで、それぞれの役割を明確にすることができたか。	4	1
自主性尊重	協働相手の長所を活かし、協働相手の自主性を尊重することができたか。	4	1
自立化	互いに依存することなく、協働相手の自立化を進められたか。	4	2
目的共有	協働相手と目的を共有することができたか。	4	3
相互補完	互いの特性を踏まえつつ、互いに補い合いながら役割分担することができたか。	4	4
公開	協働事業のプロセスや結果等の情報を公開し、市民に対する説明責任を果たすことができたか。	4	5
相互変革	協働を通して「共に学び」「共に育ち」「共に変わる」という姿勢や意識を持つことができたか。	4	6
期限設定	馴れ合いを防ぐため達成目標や事業期間など協働関係を解消する条件を決め、緊張感を保つことができたか。	5	7
評価点			